

「原子力産業セミナー2025」速報

2023年11月2日
(一社)日本原子力産業協会

原産協会は関西原子力懇談会と共催で、原子力産業界の人材確保支援と原子力産業への理解促進のため、合同企業説明会「原子力産業セミナー2025」を、10月7日(土)に東京・浜松町、10月28日(土)には大阪・梅田で開催した。参加学生層を広げることを狙って昨年度から「エネルギー未来フォーラム」をサブタイトルとしている。学生は来場して参加するだけでなく、Web経由で企業の説明を聞くことができるようにした。また、出展者もWeb経由での出展が可能とした。

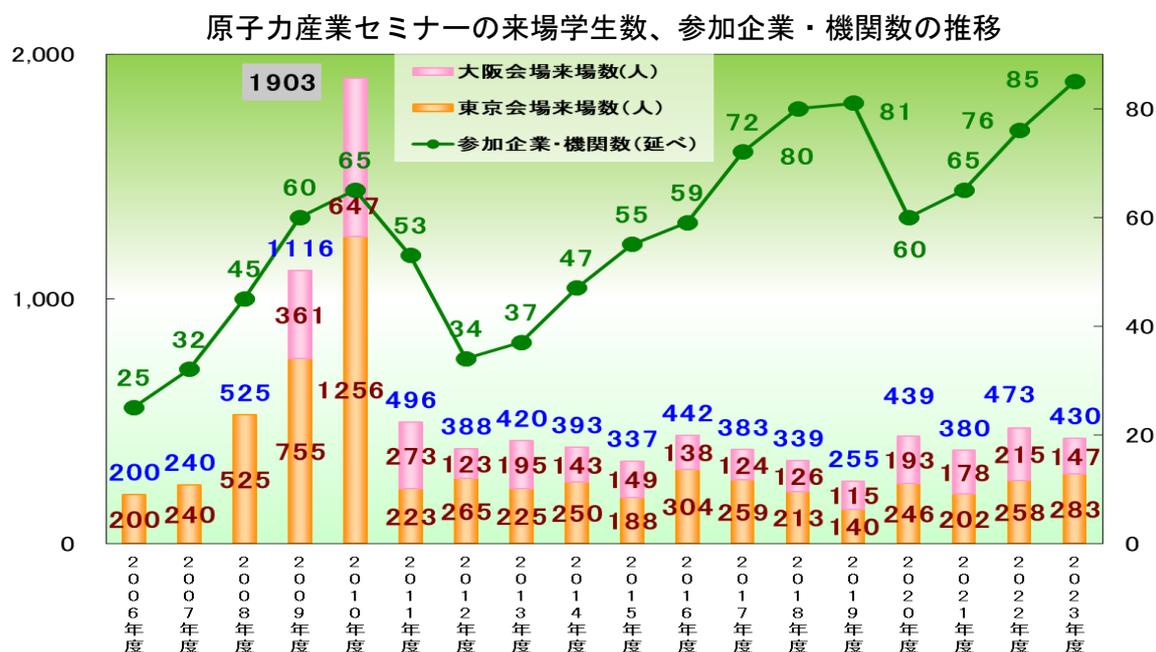
東京と大阪会場には、合計430人の学生が参加した(昨年度473人)(下記グラフ参照)。東京会場では60校から283人が参加(昨年度87校・258人)、大阪会場では40校から147人が参加した(昨年度62校・215人)。うち、会場に来場した学生は東京275人、8人がオンラインで参加した。大阪会場ではそれぞれ137人、10人であった(いずれも速報値)。

出展企業・機関数は85社(昨年度76社)となり、昨年度より9社増加した。東京会場は46社(昨年度42社)大阪会場が39社(昨年度34社)。今回Web方式のみで出展したのは大阪1社のみであり、出展者の99%は対面方式を選択した。人材確保の困難さがますます、基本的に対面方式をとる本セミナーの価値が高まっていると考えられる。

1. 概要

()内の数字は昨年度

	東京会場	大阪会場	
開催日	2023年10月7日(土)	2023年10月28日(土)	
開催場所	東京都立産業貿易センター(浜松町館) イベントホール	梅田スカイビル アウラホール	合計
参加学生数	283人(258人)	147人(215人)	430人(473人)
参加企業・機関数	46社(42社)	39社(34社)	85社(76社)



2. 参加企業・機関一覧

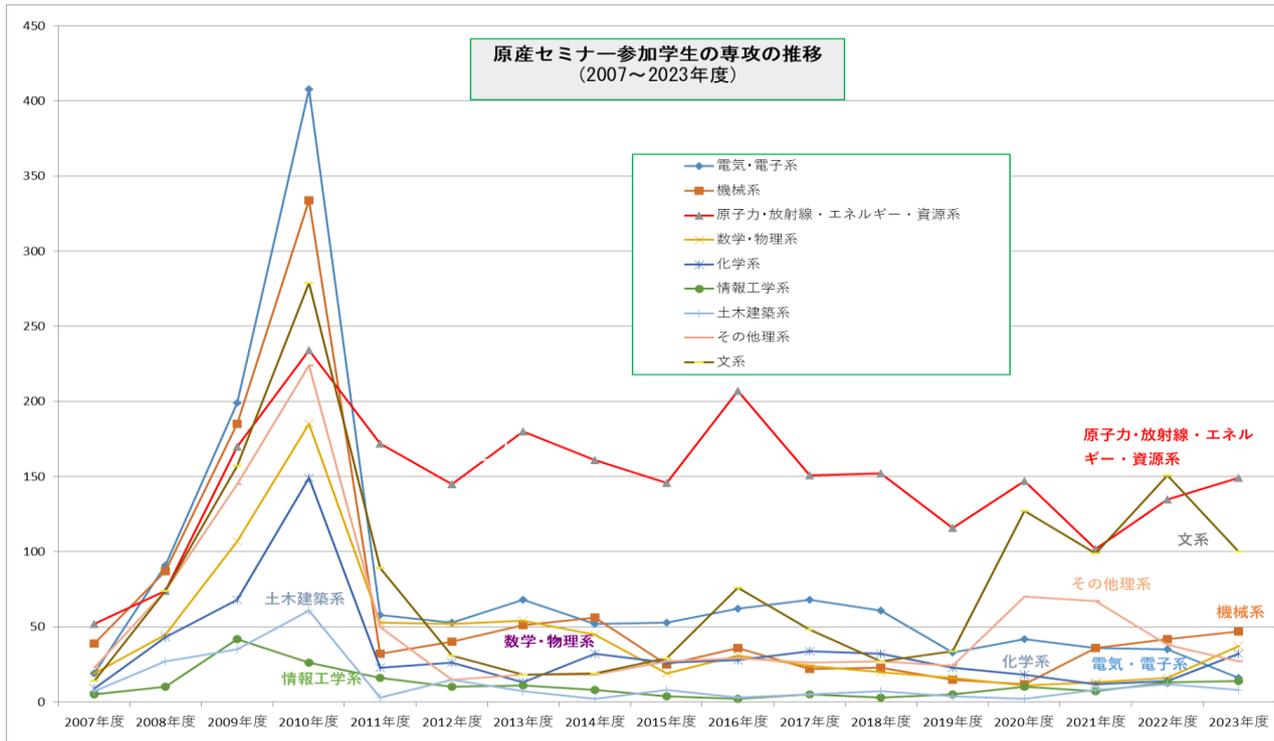
出展企業・団体 (*は初出展の企業、web参加は対面との併用を含む)		
電力関連企業	東京	大阪
1 東京電力ホールディングス	中	中
2 関西電力	中	中
3 中国電力		小
4 日本原子力発電	中	中
5 J-POWER(電源開発)	中	
6 日本原燃	中	中
7 東京パワーテクノロジー	中	
8 東電設計	中	中
9 テブコシステムズ	中	中
10 原燃輸送	中	中
11 関電パワーテック		中
12 関電プラント	中	中
13 原電エンジニアリング	小	小
重電メーカー		
14 日立製作所	中	中(Web)
15 三菱重工業	中	中
16 東芝(東芝エネルギーシステムズ)	中	中
17 IHI	小	小
プラント・エンジニアリング企業等		
18 アトックス	中	中
19 MHI NSエンジニアリング	小	小
20 MHI NUSEC ※	小	小
21 三菱原子燃料	中	小
22 オー・シー・エル		中
23 関電工	中	
24 木内計測	小	小
25 クリハラント		小
26 グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン	中	
27 原子燃料工業	中	中
28 原子力エンジニアリング		中
29 新日本空調	中	
30 セイコー・イージーアンドジー	小	
31 千代田テクノル	小	小
32 TVE(旧：東亜バルブエンジニアリング)		小
33 東芝プラントシステム	中	中
34 ナイス	小	
35 日揮グローバル	中	中
36 日本環境調査研究所	小	小
37 日本原子力防護システム	中	中
38 東京防災設備	小	
39 NESI	小	小
40 日立プラントコンストラクション	小	小
41 BWR運転訓練センター	中	
42 スギノマシン	小	
43 コーガアイトープ		小
44 FTCC ※		小
45 OKAMURA ※		小
46 東京ニュークリア・サービス ※	小	
47 東双不動産管理 ※	小	
公益、独立行政・研究法人		
48 ITER 日本国内機関(量子科学技術研究開発機構)	中	
49 原子力安全推進協会	中	中
50 原子力規制委員会 原子力規制庁	中	中
51 原子力人材育成・確保協議会	大	
52 原子力発電環境整備機構(NUMO)	中	中
53 電力中央研究所	小	
54 日本アイトープ協会	中	
55 日本原子力研究開発機構	中	中
	46	39

3. 原子力産業セミナー2025の主な特徴と来場学生のプロフィール

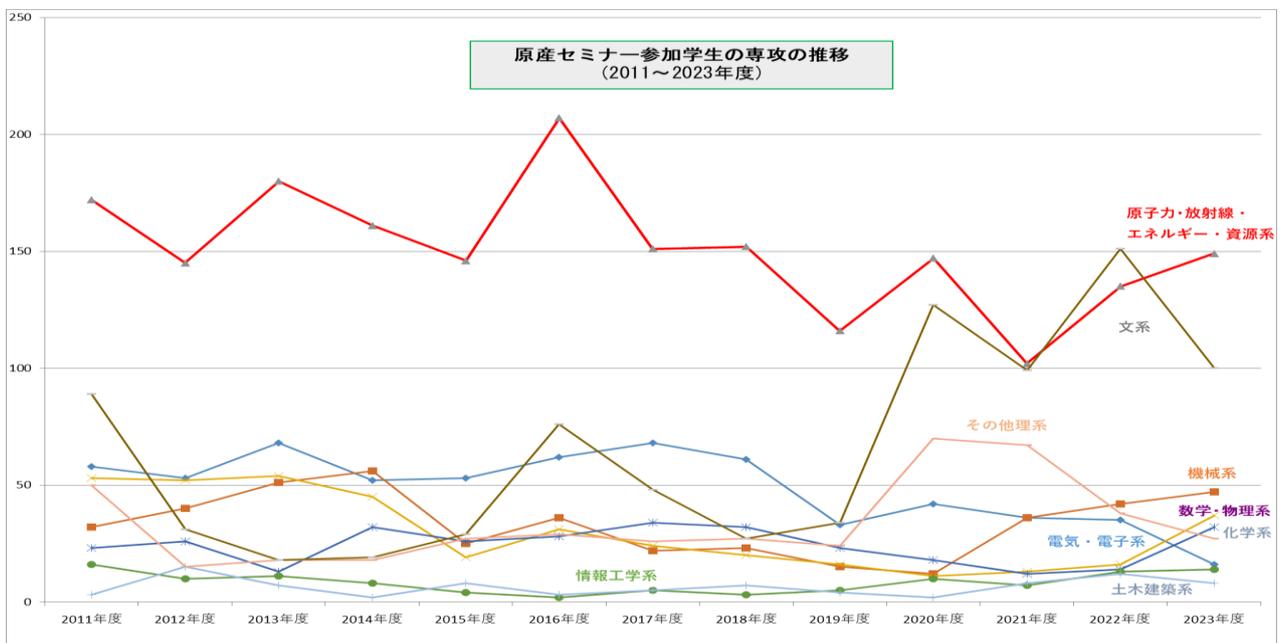
東京・大阪の両会場及びWebで参加した学生のプロフィールは以下の通り。

- ・ 会場に来場した学生は合計412名、Web参加の学生は18名。
- ・ 会員企業のニーズを踏まえ、理系学生を中心に集客を行ったため、東京・大阪会場の理系比率は77%（昨年度64%）となった（理系学生数は331名（昨年度305名）。また企業から人気の高い第二新卒（既卒）も参加。
- ・ 女性来場者は111名（東京64、大阪47）、割合26%で、昨年度（24%）と同程度。女性参加者のうち理系は、東京43（67%）、大阪22（47%）。

年度別での参加学生の専攻（人数）の推移は以下の通り（2007年度～）。

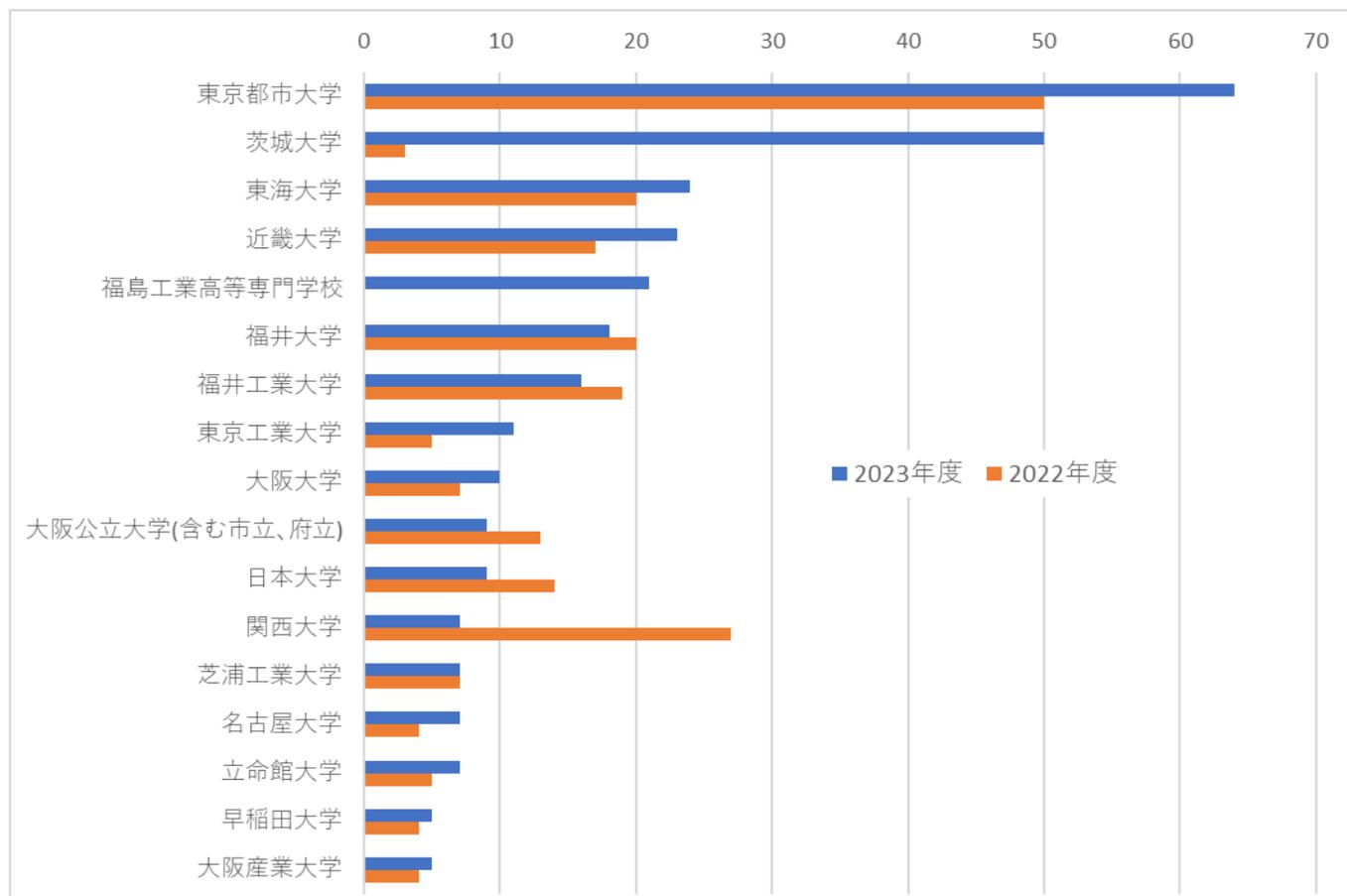


(2011年度以降の推移)



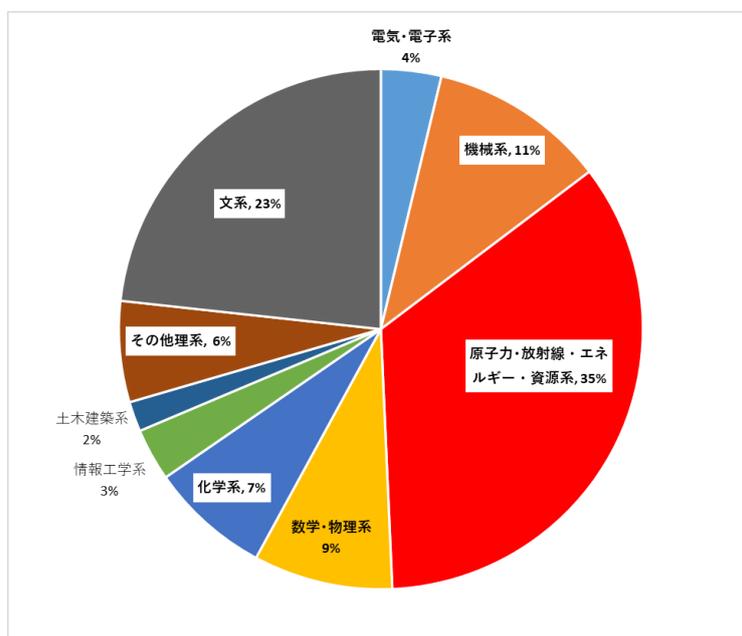
4. 来場した学生の所属校（グラフは東京+大阪で今年度5名以上の参加校のみ）

今年度の原子力産業セミナー（東京、大阪、Web）には95校の大学等（昨年度131校）から430名（昨年度473名）の学生・既卒が参加した。下記に今年度の5名以上参加校と昨年度との比較を示す（青は今年度、赤は昨年度）。最多は東京都市大、次いで茨城大、東海大、近畿大、福島高専、福井大、福井工業大、東工大、大阪大だった。



5. 学生の専攻

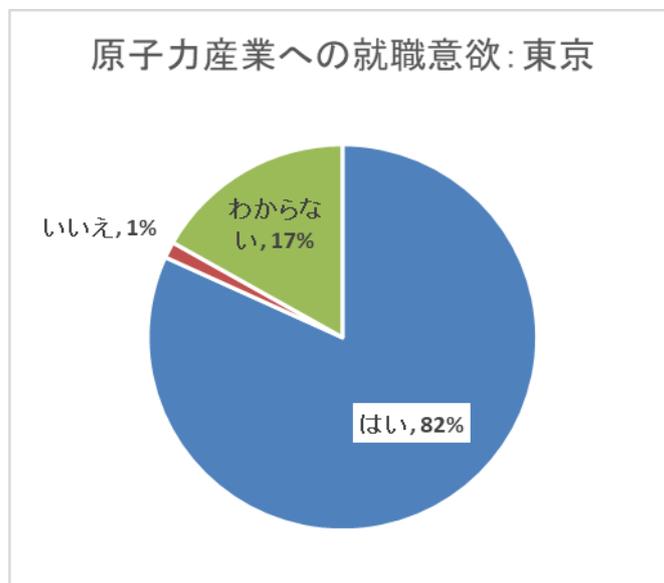
今年度、東京・大阪会場に来場した学生の専攻の割合は以下の通り。



6. 原子力産業への就職意欲

参加学生へのアンケートで、「原子力産業への就職を視野に入れたと思いますか？」と質問した。東京では82%の学生が「はい」と回答した（大阪分は集計中）。

また、「参加したことで原子力産業への理解は深まったか」の質問には、東京で91%の学生が「とても深まった」「やや深まった」と回答した。



7. 参加学生の声（東京）

原子力産業への理解、働く場としての原子力産業

- ・ 学校では習わない知識そして企業の深いところまで聞けた。
- ・ 原子力産業はマイナスのイメージがあったが、いい所を沢山見れて良かった。
- ・ 新しい原子炉の開発や、海外との取引についてお話を聞くことができ、理解が深まった。
- ・ 非常に幅広い分野での活動が多くて、様々な取り組みを行っていることが知れた。国際規模のプロジェクトもやっていて、壮大な事もやっているとわかり感銘を受けた。
- ・ 原子力が様々な場面で必要とされていることを知り、多くの分野で貢献したいと思った。
- ・ 解析に興味があったため、解析ができる業務内容に惹かれた。また、役所でも研究職では解析も行えることを知り、非常に興味を持った。
- ・ 仕事内容と休暇の取りやすさのワークライフバランスが良かった。
- ・ 説明を聞いて、事業内容や社会貢献度の高さに魅力を感じた。

企業の印象

- ・ 事業がオンリーワンという点に興味を持った。
- ・ 入社後のイメージがしやすく、働きやすい環境に感じた。
- ・ 炉心の解析を専門としていたため、燃料を製造する会社の社員の方の話などから、新しく事業に興味を湧いた。
- ・ 地元密着という業務で、とても良いと感じた。

(2024/7/22 Rev)

以上